

令和3年度 事業報告書

()内は前年度

公益目的事業 1 ～長寿科学研究等支援事業～

長寿科学に携わる研究者に対して、その研究費などを支援する事業

(1)長寿科学研究者支援事業

46,980 千円
(23,419 千円)

令和3年度は7名に総額39,955,363円の助成を行い、平成20年から69名のべ155件、324,752,485円の助成を行なった。

なお、新型コロナ禍の影響により令和2年度の研究の進捗に支障が出た研究者1名に対し、5,662,020円の助成金の繰越を認める救済措置を行った。

また、令和4年度から開始する「長生きを喜べる長寿社会実現研究支援」の公募を行い、53件の応募から以下の2件を採択した。

<令和4年度「長生きを喜べる長寿社会実現研究支援」採択者>

No.	研究者	所属施設	研究課題	開始 ステージ	初年度希望 助成額
1	三浦 久幸	国立長寿医療研究センター	アドバンス・ケア・プランニング推進のための 共通 ICT プラットフォーム構築—どこで療養 していても本人意思が尊重される社会作り	A ステージ 探索研究	10,000,000
2	檜山 敦	東京大学	貢献寿命延伸への挑戦！ ～高齢者が活 躍するスマートコミュニティの社会実装～	B ステージ 実装研究	30,000,000

<令和3年度 採択状況>

	計画数	応募数	実施数	備考
継続研究支援 (最終年度)	7名	7名	6名	令和3年2月25日:審査評価委員会にて研究期間が 最終年度となる7名から研究成果の発表を受け、審査 の結果6名の継続を決定した。
新規研究支援 (1年目)	1名	1名	1名	令和2年10月23日:指定課題研究審査評価小委員 会にて1名の採択を決定した。
合計	8名	8名	7名	

<令和3年度 採択者一覧>

No.	研究者	所属施設	研究課題	期間	助成額	決定額	摘要
1	あんどうかなえ 安藤香奈絵	東京都立大学	加齢による神経細胞内 ATP 低下に注目した新規 抗脳老化戦略の開発	R1-R3 3年計画 3年目	1,500,000	1,500,000	継続
2	ただひろぶみ 多田 敬典	至学館大学	シナプスエイジング分子 メカニズム解明による認 知症治療薬開発基盤の 構築	R1-R3 3年計画 3年目	2,000,000	2,000,000	継続
3	ながいとしゆき 永井 利幸	北海道大学大学 院	最先端技術を駆使した 日本人高齢者心不全に おける新規高精度予後 予測モデルの開発	R1-R3 3年計画 3年目	5,728,560 (R2 繰越金) *5,662,020 (R3 助成金) *66,540	5,662,020	継続
4	したらひとし 設楽 仁	群馬大学大学院	高齢者の頸椎・頸髄疾患 における中枢神経代償メ カニズムの解明	R1-R3 3年計画 3年目	2,370,300	761,642	継続
5	おおしもしんいちろう 大下慎一郎	広島大学大学院	呼吸音可視化・自動解析 プログラムによる在宅高 齢者の遠隔医療システム 開発	R1-R3 3年計画 3年目	2,000,000	1,948,431	継続
6	おおすがようすけ 大須賀洋祐	東京都健康長寿 医療センター研 究所	高齢者の就労現場で簡 便に評価可能な労働安 全指標の開発	R1-R3 3年計画 3年目	850,000	829,320	継続
7	にいだしゅんべい 新飯田俊平	国立長寿医療研 究センター	認知症におけるデータ ベース構築手法の研究	R3-R5 3年計画 1年目	30,000,000	27,253,950	新規
合 計					44,448,860	39,955,363	

(2)長寿科学関連国際学会派遣事業

0 千円
(0 千円)

令和3年度は事業を休止した。

(3)若手研究者表彰事業

0 千円
(1,612 千円)

令和3年度は事業を休止した。

公益目的事業 2 ～情報提供事業～

長寿科学研究の成果や健康長寿に関する情報を広く国民に提供する事業

(1)業績集の発行

0 千円
(6,925 千円)

令和3年度は事業を休止した。

(2)機関誌の発行

15,263 千円
(25,708 千円)

健康長寿情報や長寿科学研究成果を分かり易く広報するために、令和3年度より当財団ホームページにてWEB版機関誌「Aging & Health(エイジングアンドヘルス)」として年に4回(春・夏・秋・冬)配信した。

◇第1回編集委員会 令和3年10月7日(木) 東京にて開催



PDF 閲覧数 (令和4年3月末時点)

号	公開日	特集名	閲覧数	1日当たりの閲覧数
97号	2021年4月7日	新型コロナウイルス禍のフレイル対策 —身体的・精神的・社会的側面から—	3,937	11.1
98号	2021年7月9日	高齢者の呼吸器疾患	1,774	6.7
99号	2021年10月7日	高齢者の就労・社会参加	1,585	9.0
100号	2022年1月14日	高齢者の転倒・骨折予防—実態とその予防	1,081	14.0

(3)健康長寿ネット事業

5,659千円

(8,088千円)

本財団のホームページ「健康長寿ネット(<https://www.tyojyu.or.jp/net/>)」により、老化予防や健康づくり、疾病、介護予防など、健康長寿に関する情報を広く国民に提供している。

1. 掲載内容と記事数（令和4年3月末時点）

項目	内容	記事数
健康長寿とは	「高齢者の食事摂取基準」「運動器の老化」「日本人はなぜ長生きか」「高齢者の生きがい」など 自分でできる健康長寿のための情報を紹介	382
高齢者の病気	「サルコペニアとは」「フレイルとは」「老年症候群」「認知症」「肺炎」など 高齢者に多い病気・症状をわかりやすく解説	432
高齢者を支える制度とサービス	「認知症高齢者の日常生活自立度」「地域包括支援センター」「地域密着型サービス」など 介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介	163
対談・特集・研究情報	財団機関誌「Aging & Health」から対談・特集・研究情報を転載	334
エッセイ	井口昭久先生のエッセイ「老いをみるまなざし」、宮子あずさ先生「訪問看護師から老いをみると」他、財団機関誌「Aging & Health」からエッセイを転載	156
インタビュー	財団機関誌「Aging & Health」から“いつも元気、いまも現役”を転載	26
介護予防のための生活機能チェック	介護保険法による「基本チェックリスト」に基づく、介護予防のための生活機能チェック(25問)をインターネット上で提供	39
合計		1,532

2. メールマガジンの配信

利用者の長寿科学の情報に対する需要の把握と、利用者と財団との双方向の対話の仕組み作りの一環として定期的なメールマガジンの配信を令和2年7月から開始した。

メールマガジン配信の内容

健康長寿ネットの全てのページに無料メールマガジン配信登録の申込みページへのリンクを用意。登録ページにて名前・職業・メールアドレスを登録いただき、登録者に以下の内容をEメール(HTML形式)にて無料で配信している。令和3年度は8回配信した。

- 健康長寿ネットの更新情報
- 長寿科学研究成果ニュース
- 財団主催のイベントのお知らせ
- 財団発行の刊行物のお知らせ
- 日々に役立つ健康情報(おすすめコンテンツ)
- そのほか財団からのお知らせ

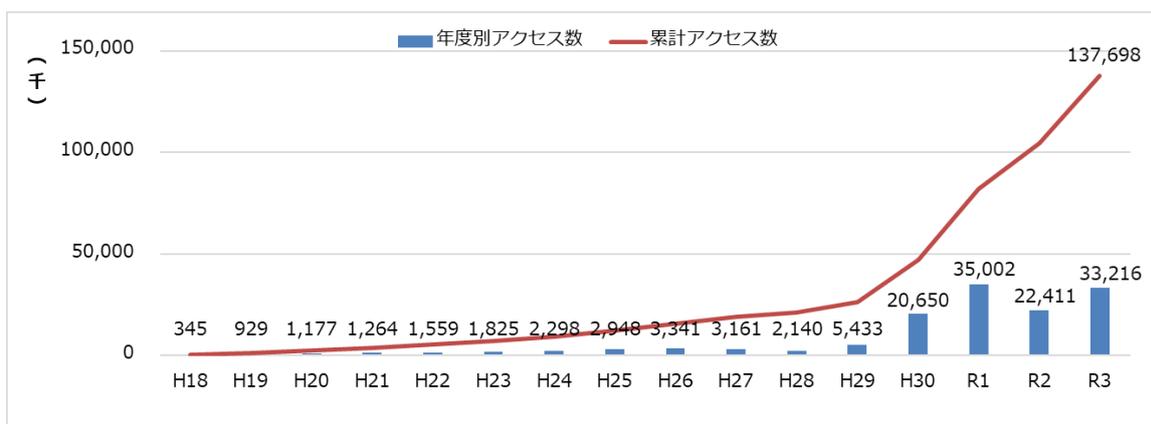
メールマガジン登録者の概況

登録者数:11,181人

無職	2,216	19.8%
会社員・役員	1,823	16.3%
医療従事者	1,595	14.3%
主婦・主夫	1,316	11.8%
自営業・自由業	1,102	9.9%
パート・アルバイト	739	6.6%
その他	695	6.2%
介護施設職員	657	5.9%
公務員	271	2.4%
大学・研究機関研究者	268	2.4%
団体職員	227	2.0%
派遣職員	110	1.0%
学生	71	0.6%
不明	48	0.4%
メディア関係	43	0.4%
総計	11,181	

3. アクセス件数

1) アクセス数推移(単位:千アクセス)



2) アクセス内容

項目	アクセス数 (訪問者数)	閲覧頁数 (ページビュー数)	1 訪問あたり 閲覧頁数	平均閲覧時 間(分)	直帰率	新規アクセス 率
R3	33,216,222	42,600,400	1.28	1:01	86.42%	85.41%
R2	22,411,290	28,776,310	1.28	1:01	86.84%	84.34%
前年比	148.2%	148.0%	100.0%	100.0%	-0.42	1.07

3) 訪問者属性(年齢別・性別・閲覧環境)

(A) 年齢

年齢	18-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65~
R3 割合(%)	16.31%	24.21%	24.89%	16.45%	10.04%	8.04%
R2 割合(%)	14.25%	25.35%	25.64%	15.67%	9.87%	9.22%
前年比	2.06	-1.14	-0.75	0.78	0.17	-1.18

(B) 性別

性別	男性	女性
R3 割合(%)	44.1%	55.9%
R2 割合(%)	44.9%	55.1%
前年比	-0.80	0.80

(C) 閲覧端末

端末	モバイル	デスクトップ	タブレット
R3 割合(%)	74.20%	23.10%	2.70%
R2 割合(%)	71.32%	25.08%	3.60%
前年比	2.68	-1.98	-0.90

4) アクセスランキング(令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日)

順位	タイトル	閲覧回数
1	貧血予防に良い食事・食べ物・調理方法とは	1,048,216
2	亜鉛の働きと1日の摂取量	838,461
3	カリウムの働きと1日の摂取量	778,935
4	ビタミンDの働きと1日の摂取量	654,826
5	マグネシウムの働きと1日の摂取量	598,694
6	心拍数と運動強度	529,218
7	ビタミンCの働きと1日の摂取量	515,460
8	水は1日どれくらい飲めば良いか	488,585
9	ビタミンEの働きと1日の摂取量	405,354
10	三大栄養素の炭水化物の働きと1日の摂取量	384,198

5) その他

健康長寿ネットの著作物等の利用申請件数:56件(令和2年度:78件)

(4)長寿たすけ愛講演会開催事業

2,024 千円
(35 千円)

高齢社会の中で、明るく活力のある長寿社会の構築を参加者と共に考え、実践するきっかけづくりの場として第 32 回日本老年学会総会において市民公開講座を WEB にて開催し配信した。

なお、開催期間後は当財団の YouTube チャンネルにて引き続き配信中。

■公益財団法人長寿科学振興財団 Youtube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UC2-3MwyFI_7RkPXKm6_eI8Q/featured



共催団体:第 32 回日本老年学会総会

開催期間:令和3年6月 13 日(日)14:00~16:00 ライブ配信

令和3年6月 13 日(日)~令和3年7月11日(日) オンデマンド配信

視聴者数: 888 人

内容(再生回数は令和3年7月6日から令和4年3月31日の期間):

第 1 部「with コロナ時代を健やかに生き抜くために」

タイトル	対談者	再生回数
コロナ騒動と医療政策	大島 伸一 公益財団法人 長寿科学振興財団 理事長 長谷川 敏彦 一般社団法人 未来医療研究機構 代表理事	629

第 2 部「健康寿命の秘訣を教えます」

タイトル	登壇者	再生回数
フレイル・サルコペニア	荒井 秀典 国立長寿医療研究センター 理事長	7,028
オーラルフレイル	平野 浩彦 東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科部長	290
認知症	安野 史彦 国立長寿医療研究センター 精神科医長	500
閉じこもり、社会連携	藤原 佳典 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域 保健研究チーム 研究部長	607

(5)長寿科学研究普及事業

3,037千円

(0千円)

国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを決め、長寿科学研究に関するシンポジウムを開催している。今年度は「認知症のバイオマーカー研究」をテーマにオンラインにて開催した。

【第16回長寿医療研究センター 国際シンポジウム】

開催日時:令和3年12月18日(土)13時00分~17時00分

開催方法:オンライン開催(YouTubeにてライブ配信)

テーマ:「Biomarker studies for dementia」

(認知症のバイオマーカー研究)

視聴者数:188人

内容:

【セッション I】

Blood-based biomarkers: current status and future directions

座長:国立長寿医療研究センター 中村 昭範

①Blood biomarkers in the natural history of Alzheimer's disease

メルボルン大学(オーストラリア) Colin L. Masters

②Plasma Amyloid β Biomarkers: Current status and future direction

国立長寿医療研究センター 中村 昭範

③Blood-based biomarkers for brain pathologies other than amyloid accumulation: beyond the ATN system

量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所 徳田 隆彦

④パネルディスカッション

【セッション II】

Imaging biomarkers: Outcomes and Challenges

座長:国立長寿医療研究センター 加藤 隆司

①Relationship between β -amyloid and tau levels and spreading using PET imaging

オーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO) Vincent Doré

②Recent progress and future prospects of neuropathological imaging

新潟大学 脳研究所 島田 斉

③PET inflammatory imaging of glial activation in Alzheimer's disease

国立長寿医療研究センター 安野 史彦

④パネルディスカッション



事業報告の附属明細書

記載すべき事項なし